

くにみ 議会だより

KUNIMI

No.179

12月議会号



～二十歳の門出 誓いを新たに～

1月13日、新成人102人を祝い、国見町成人式が観月台文化センターで行われました。

12月定例会

道の駅国見あつかしの郷に係る指定
管理料を増額(平成30年度補正予算) — P2

一般質問(第5次国見町振興計画の進捗状況についてなど4人が登壇) — P6

地方議会が抱える課題について学ぶ
(地方自治研究交流セミナー) — P12

発行 ● 福島県国見町議会 編集 ● 議会広報常任委員会 発行日 ● 平成31年 1月29日

〒969-1792 福島県伊達郡国見町大字藤田字一丁田二1番7 TEL.024(585)3295 FAX.024(585)2181 <http://www.town.kunimi.fukushima.jp/site/gikai/>

道の駅国見あつかしの郷に係る指定管理料を増額

12月議会定例会は12月4日から7日まで4日間の会期で開かれました。今定例会には、道の駅国見あつかしの郷に係る指定管理料2500万円、小中学校特別教室冷暖房整備事業費7402万円などを増額する平成30年度補正予算など9議案が提出され、すべて原案どおり可決されました。一般質問では4人の議員が登壇し、町政をただしました。

質疑

一般会計

少雨による農業対策の申請件数は

問 (浅野富男議員)
農業等災害対策補助事業402万円は異常気象による水不足への対策であるが、申請は何件あった

道の駅について 町民へ情報提供する考えは

問 (渡辺勝弘議員)
道の駅の状況について、町民の方へわかりやすく資料を提供すべきと考

のか。

産業振興課長 3団体から申請があり、内容は、揚水機ポンプの購入が12件、井戸の掘削が22件である。

まちづくり交流課長 経営状況等については、会社からの報告をもとに議会へ説明している。これまで道の駅のイベントや話題についてはその都度お知らせしており、各種懇談会でも話題にしている。町民への直接の説明は考えていないが、会社の決算の概要については、議会への報告後に広報などを通じてお知らせしたい。

指定管理料は赤字補填ではないのか

問 (松浦和子議員)
道の駅の指定管理料2500万円は、ふるさと振興基金による支出であり一般財源ではないが、広い意味では町の貴重な財源である。この負担金投入により黒字になるといのは安易な考えではないか。

まちづくり交流課長 この指定管理料は赤字補填ではなく、道の駅の公共施設部分の管理運営費であり、町が負担すべきものである。上半期の実績などから今年度の見通しがついたため、補正予算に計上した。

ふるさと振興基金の運用についての考えは

問 (八島博正議員)
道の駅の指定管理料の財源であるふるさと振興基金の残高が減少している。来年度以降は基金からの取り崩しを減らす方向にしなければならぬと考えが、いかがか。

副町長 道の駅の管理運営費は全体で5000万円を上回る費用のうち、面積で按分した経費2500万円を負担するものである。ふるさと振興基金については今年度の残高が約3400万円となる見込みであるが、原資であるふるさと納税もポータルサイトの増設などで伸びてくると考えられる。また、道の駅の経営状況も上向ってきている。見える化を図る意味からも、今後ふるさと振興基金等の特定財源を道の駅の維持管理費に充てていきたい。



昨年末の道の駅来場者300万人達成記念セミナー

街路灯は何基交換するのか

問

(渡辺勝弘議員)

駅前街路灯の交換について、既存の電球の交換は何基交換するのか。また、防犯のためにオレン

ジ色にする所も増えているが、いかがか。

建設課長

町が管理している街路灯は藤田駅周辺を中心に、全部で50基ある。そのうち約16基をLED灯に交換したいと考える。色についてはこれから検討したい。

冷暖房整備事業の地方交付税措置はどのくらいか

問

(八島博正議員)

小中学校特別教室の冷暖房整備の費用について、国から補助されるが、全体の補助金を除いた額の地方債のうち、地方交付税で措置されるのはどのくらいか。

学校教育課長

補助金の残りはすべて起債とい

ブロック塀改修に該当する箇所は

問

(八島博正議員)

国では学校設備等のブロック塀の改修についても補助対象としているが、町では修繕すべき箇所はあるのか。

学校教育課長

当町では該当する箇所はない。

平成30年度一般会計 補正予算(第4号)のおもな内容

【主な事業】

- 小中学校特別教室冷暖房整備事業 7402万円
 - 道の駅国見あつかしの郷に係る指定管理料 2500万円
 - 総合行政システムに係る新元号対応改修費 434万円
 - 樹園地に係る高温少雨対策費補助金 402万円
 - 貝田地区ほ場整備に伴う農地集積補助金 598万円
 - その他(障がい者自立支援・障がい児入所給付費等の返還金など) 2143万円
- 計 1億3479万円

【主な財源】

- 国・県からの補助金など △557万円
 - 地方債 6350万円
 - ふるさと振興基金からの繰入金 2500万円
 - その他(諸収入など) 158万円
 - 前年度からの繰越金 5028万円
- 計 1億3479万円

人

事

国見町大木戸財産区
管理委員の選任に同意

松浦幹男委員の死去による補充のため、西大枝の小林喜勝氏(新任)の選任に同意しました。

国見町渇水対策施設財産
管理委員に7名を選任

平成31年3月14日任期満了により、次の7人の選任に同意しました。

第1号委員(石母田地区) 宍戸 嘉美氏(新任)
第2号委員(大木戸(山根)地区委員) 菊池 勝雄氏(再任)

大内 茂氏(再任)
第3号委員(貝田地区) 齋藤 修一氏(再任)

松田 富男氏(再任)
大沼 剛司氏(再任)
大沼 重好氏(再任)

条例制定

町へ本社機能の移転等を行う事業者の課税免除等を規定

地方活力向上地域における固定資産税の課税免除及び不均一課税に関する条例

(要旨) 地域再生法の一部を改正する法律の施行に伴い、固定資産税の特別措置を拡充するため制定する。企業の新規立地及び投資による雇用の創出を促進するため、本町への本社機能の移転・拡充等を行う事業者に対し課する固定資産税について、課税免除又は不均一課税を適用する。

条例改正

人事委員会勧告に基づき給料表を改正

職員の給与に関する条例

(要旨) 人事委員会勧告に基づき、若年層に重点を置きつつ給料表を改正する。勤勉手当を1・8月から1・85月とする。

問

(阿部泰蔵議員)

今回の改正により職員全体の給料はどのくらい上がるのか。またどのくらい金額が新たに必要となるのか。

総務課 職員全体では平均0・1%の改正である。この改正により必要になる額は、給料としては約34万円、賞与等を含めると約260万円となる。

一部事務組合報告

※一部事務組合とは複数の市町村が、事務の一部を共同で行うために設置する団体

入院患者減少の中黒字計上

公立藤田病院組合議会

10月26日、第3回議会定例会が開催され、平成29年度の決算認定が審議され、認定されました。

平成29年度決算認定では、入院患者の減少や高額薬品の増加など経営状況が厳しくなる中で職員が一丸となり経営改善に努め、485万円の黒字計上となりました。

また。

平成28年度決算認定

◆収益的収支決算額

収入 60億6487万円

支出 60億6002万円

◆資本的収支決算額

収入 1億4278万円

支出 5億124万円

(収支差引不足分は、過年度分損益勘定留保資金で補いました。)

(報告者 佐藤定男)

菅野清一氏(川俣町)を副議長に選任

伊達地方消防組合議会

10月25日、第2回議会定例会が開催され、川俣町の菅野清一議員が副議長に選任されました。平成29年度の決算認定、平成30年度補正予算の2件が審議され、どちらも認定可決されました。

平成29年度決算認定

収入 16億3408万円

支出 16億446万円

(報告者 村上正勝)

ごみ処理施設整備基金積立金などを増額補正

伊達地方衛生処理組合議会

10月25日、第3回議会定例会が開催され、平成29年度決算認定、ごみ処理施設整備基金積立金の増額などを含む平成30年度補正予算など6件の議案が審議され、すべて認定可決されました。

平成29年度決算認定

歳入 46億851万円

歳出 45億9692万円

(決算額は一般会計、し尿処理事業特別会計、ごみ処理事業特別会計の合計)

(報告者 浅野富男)

町長の行政報告（抜粋）

■東日本大震災からの早急な復興・再生

●除染対策事業

・藤田方部1号仮置き場では全量搬出が完了し、現在大枝方部1号仮置き場からの輸送を開始している。

●風評対策トップセールス、特産品PR事業

・岐阜県池田町「みの池田ふるさと祭」では、モモやぶどう、りんごなどを中心に町農産物のPRを行った。

・特別栽培米としてブランド化を目指す「くにみ米」は、各種イベント会場で試食販売会をするなど一層のPRに努めた。

●観光モニターツアー「くにみしゅらん」

・今年度2回目のツアーを、仙台圏の女性を対象に11月24日、25日に実施した。あんぼ柿体験やりんご狩り、地域の家庭料理でおもてなしを行い交流を深めた。

■安全安心な町政の実現

●災害時における相互応援協力

・11月1日、国土交通省福島河川国道事務所と災害時相互応援協定を締結した。災害時の相互の情報の収集と提供等を行い、防災拠点として道の駅が活用されるなど、町民の安心安全に大きく寄与するものとする。

●鳥獣被害対策

・野生鳥獣侵入防止柵について、今年度は貝田地区から西大枝地区までの区間4.8キロメートルで年内に設置作業が完了する予定で、町内の山際への設置がすべて完了する。

■活力ある町政の実現

●くにみ産業祭

・11月10、11日のくにみ産業祭では、町内の農商工連携による展示販売や各種ステージイベントのほか、北海道ニセコ町、岐阜県池田町、大分県国東市などの交流市町の様々な商品の販売なども行い、来場者から好評をいただいた。

●復興・絆・イルミネーション

・11月23日の点灯式では、道の駅国見あつかしの郷を幻想的に彩り、町民の心と心をつなぐ灯りとなった。

■思いやりのある町政の実現

●子育て支援事業

・道の駅の木育広場「つながる～む」は、10月14日に5万人を達成した。県内外から多くの親子に来場いただき、今後も子育てのコミュニケーションの場として、子育て支援を継続していきたい。

■町の継続的な維持発展

●歴史を活かしたまちづくり

・9月16日に、国見石を活用した「石工(ロック) フェスin石蔵2018」を郡山女子大との共催で開催し、大谷石の講演会や各種ワークショップ、かまご飯などのふるまいも行った。

・11月3日、「大木戸歴史むらづくりの会」との共催で「秋の収穫祭」を開催し、むらづくりの会による芋煮

や餅つき大会などが行われ、町ではワークショップや大木戸地区のフィールドワークを実施し、多くの来場者で賑わった。

●東京くにもみ会

・11月17日、町にご縁のある約200名の皆様や国見町応援大使の沢木順さん、木住野佳子さん、歌手の「ふたり」に参加いただき、町の産品を使った料理の提供や、町の特産品の販売なども実施し、有意義な「人との」の交流ができた。

●藤田駅前広場駐車場の整備

・11月8日に、藤田駅前緑地公園の一部敷地を民間駐車場運営会社に貸し出し、設備や運営、管理を民間が行う駐車場がオープンした。

●くにみ農業ビジネス訓練所整備事業

・短期研修、体験研修とも研修計画に基づき順調に進んでいる。また、長期研修生の確保について、11月18日に参観デーとして研修相談会を開催し、鋭意PRに努めている。

●幼少中一貫教育推進事業

・11月1日、くにみ幼稚園の5才児、国見小学校の児童、県北中学校の生徒が一堂に集まり、全員でダンス「USA」を踊り交流を深めた。

・11月27日、「教育フォーラム2018」を開催し、保護者や教職員等が今後の町の教育の充実と活性化についてグループ協議を行った。

●体育事業

・11月30日、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催に向け、国見町応援団を結成し、オール国見で機運醸成するとともに、スポーツ、文化・芸術、教育との連携した取り組みを行っていくこととした。

●国見町子ども議会

・10月30日に、役場議場で子ども議会を開催した。国見小学校6年生より議長1名、議員6名を選出し、町執行部に対し、子どもたちが考えた質問や提言を行った。子どもの視点での柔軟な発想による質問や提言は、今後の町政に生かしていきたい。



くにみ産業祭での餅まきのようす

～4人の議員が登壇し、活発な議論を展開～



町政を問う

一般質問

12月定例会

一般質問とは、議員が町政全般にわたり執行状況や将来に対する方針など、諸問題について質問を行い、政治姿勢を明らかにするものです。

議員	質問事項	ページ
佐藤 定男	第5次国見町振興計画（平成28年度～32年度）の進捗状況は	7
松浦 和子	人口減少対策に向けた事業を展開しているが、その成果を伺う	8
村上 一	震災後の防災計画はどのように見直されたのか	9
浅野 富男	地域経済活性化について今後の計画は	10

質問、答弁は要約して掲載しています。会議録全文は、町議会ホームページに掲載予定です。[<http://www.town.kunimi.fukushima.jp/site/gikai/>]

国見町議会ホームページ → 会議録検索 → 会議録検索システム → 会議録検索システムへ

Q 第5次国見町振興計画(平成28年度～32年度)の進捗状況は

A 概ね順調である。達成に向けてより具体的に政策を実行していく

問 里山・森林保全事業において耕作放棄地を10%減少させる」とあるが現状は。

産業振興課 課長 平成26年度は60鈔あったが、29年度は53・7鈔(目標54鈔)である。

問 国際人としての学びの場の提供や、国際的に活躍できる人材の育成について問う。目標値として留学生累計10人、英検等標準資格保持率70%以上とあるが実績は。

学校教育課 課長 ジョンの中で英語の教育に力を入

れている。留学の実績はないが、英検5級(準2級の資格保持率は45%で年々増加している。その中でも準2級においては平成29年度に11人合格している。

問 若者交流事業として商工会青年部の「スマイル国見若人の会」と連携し、出会いと交流の場づくりに取り組むとしている。婚活支援もやっているが結婚成立数は。

保健福祉課 課長 この会を通じて結婚に至ったのは1組である。結婚世話やき人は15人おり、月1回の定

例会などで情報の共有を図っている。

問 交流の拠点「道の駅」が昨年5月にグランドオープンした。開場以来多くの人で賑わいを見せているが経営は立上げ状況である。

まちづくり交流課 課長 平成29年度3月期の決算は約5000万円の赤字決算となった。今年度上半期の経常利益は86万円の赤字見込みで大幅に改善できている。現在の経営努力を継続し強化することで目標に近づけられるよう指導していき

問 廃校活用の事業として旧小坂小の「こさかふるさと館」と旧大木戸小の「あつかし歴史館」がある。現在の活動内容と利用者数を伺う。

保健福祉課 課長 こさかふるさと館は平成27年の開館以降毎年2000人以上(延べ人数)が利用している。スポーツから文化活動まで幅広く団体や個人に利用されており、地域の拠点として大きな役割を果たしている。

まちづくり交流課 課長 あつかし歴史館は町の歴史文化の継承、文化財の保存、調査研究の拠点として平成29年1月にオープンした。昨年度は町内外から4500人を超える来場者があった。また地元の方と連携し端午の節句や七夕などのイベントを開催し、地区の核、

心のよりどころとして大切に利用されている。

問 現時点での第5次振興計画の全体の評価と計画達成に向けての決意を伺う。

町長 概ね順調であると考えている。観光・物産、教育振興等は確かな実績を挙げてきた。今後は、農業の担い手の問題や、移住・定住対策、空き家対策などをより具体化したい。また、交流・連携、子育て支援、健康づくりなどについても、より具体的に政策を実行していきたい。



佐藤定男議員

Q 人口減少対策に向けた事業を展開しているが、その成果を伺う

A ふるさと納税や農産品の購入などに結び付いている



松浦和子議員

あった。地域おこし協力隊は、これまで3人おりまだ定住はないが、来年度に向け移住・定住の引き合いは既にある。移住・定住の具体化とともに、今後も交流人口を増やしていきたい。

問 町の拡大を図り、人口減少を最低限に抑える各種の事業を展開しているが、地域おこし協力隊の確保、女性応援ツアーや東京くみにみ会事業などの成果を伺う。

町は交流人口の拡大を図り、人口減少を最低限に抑える各種の事業を展開しているが、地域おこし協力隊の確保、女性応援ツアーや東京くみにみ会事業などの成果を伺う。

年度から29年度の5年間で6回実施し、約370人の来町者があった。東京くみにみ会は、平成26年度から5回開催しており、参加者は1000人を超えている。いずれも参加された方による、ふるさと納税や農産品の購入、人的支援などの成果が

町長

女性応援ツアーは、平成25

年度から29年度の5年間で6回実施し、約370人の来町者があった。東京くみにみ会は、平成26年度から5回開催しており、参加者は1000人を超えている。いずれも参加された方による、ふるさと納税や農産品の購入、人的支援などの成果が

たな視点で考えていく時期と考えている。

問 近隣の自治体では定住促進として新婚世帯の家賃や住宅購入費等の助成、JR通勤者への通勤補助金等の対策を講じる自治体がある。支給には定住年数等の条件はあるが、どの自治体も必死である。町で行っている助成について伺う。

近隣の自治体では定住促進として新婚世帯の家賃や住宅購入費等の助成、JR通勤者への通勤補助金等の対策を講じる自治体がある。支給には定住年数等の条件はあるが、どの自治体も必死である。町で行っている助成について伺う。

企画情報 国見ニュータウンを分譲する際の対策として策定した「国見町定住化促進総合対策事業補助金等交付要綱」に基づき助成を実施している。7項目あり、購入者向けに1年間の固定資産税相当分の奨励金交付などがある。このほかの制度では、一定基準の方が婚姻により新生活を始める際に最大24万円を支援する

制度などもある。

問 他町では移住ガイドブックを作成し、町の紹介から、働きやすい、子育てしやすい町のPR、移住者の感想、各種支援制度を一冊にまとめた冊子がある。当町ではPRの冊子やチラシを作成しているか。

他町では移住ガイドブックを作成し、町の紹介から、働きやすい、子育てしやすい町のPR、移住者の感想、各種支援制度を一冊にまとめた冊子がある。当町ではPRの冊子やチラシを作成しているか。

企画情報 町で作成しているものはないが、定住に関する町の独自性を出せるようなものを、平成31年度に検討していきたい。

問 事業にはお金をかけるが、PR誌やチラシの作成を利用した広報活動に取り組んでいないのは残念に思う。町の魅力満載のガイドブックの作

成、配布を考えてもいいと思うが、今後どのようにPRしていくのか。

企画情報 費用対効果が表示されるものでなければならぬ。PRの方法も種々あり、以前作成した、じゃらんや食卓図鑑などのように町の良さがわかるものを作り、東京圏や仙台圏でも効果が上がるような、国見の魅力を存分にPRできるものになりたい。

事業にはお金をかけるが、PR誌やチラシの作成を利用した広報活動に取り組んでいないのは残念に思う。町の魅力満載のガイドブックの作



国見町応援大使の皆さんが駆けつけ盛り上がった東京くみにみ会

Q 震災後の防災計画はどのよう に見直されたのか

A 連絡体制の強化や防災備蓄倉庫の 充実などを明記した

問 深夜や早朝の時間帯に激甚災害が発生し、行政と自治会機能が著しく麻痺した状態に対応する有効手段と町の防災計画はどのように見直されているのか伺う。

見直しを行っている。平成26年度に、双方向の連絡体制の強化、防災備蓄倉庫の充実、防災マップの充実などを明記した。平成28年度には、気象警報発表時の警戒態勢配備の確立

町長 町の地域防災計画は、東日本大震災の教訓を生かし

町の地域防災計画は、東日本大震災の教訓を生かし、さらには、自助の大切さを冊子として配布し、

認などを行っている。避難行動要支援者の名簿は福祉サイドと連携し、警察や消防団、町内会、民生委員、社会福祉協議会と情報を共有している。

問 国見町には多くの土砂災害警戒区域があるが、避難場所が警戒区域内にあり、住民の安心・安全を確保するための避難対策は、地域の現状に即した検討がなされているのか。

土砂災害警戒区域内に立地しているが実際に土砂災害が及ぶ可能性は低いことから、指定避難場所として避難の呼びかけを行ってきた。

問 「地区防災計画」が進められているが、当町でも大字単位での防災計画を進めるべきと考えるが、いかがか。

問 特別養護老人ホーム「国見の里」も土砂災害警戒区域に位置しているが、町は避難計画をどのようにしているのか。

特別養護老人ホーム「国見の里」も土砂災害警戒区域に位置しているが、町は避難計画をどのようにしているのか。

国・県との連携では、土砂災害や浸水災害を想定した防災マップを配布し、防災意識の高揚を図っている。今後、も町民の生命と身体と財産を守っていききたい。

問 桑折町では「地区防災計画」が進められているが、当町でも大字単位での防災計画を進めるべきと考えるが、いかがか。

問 小坂地域を例にとると、小坂農村総合管理センターについては、

特別養護老人ホーム「国見の里」も土砂災害警戒区域に位置しているが、町は避難計画をどのようにしているのか。

問 大規模震災での安否確認や避難行動、要支援活動のための各戸の名簿や高齢者等の要支援者の名簿は把握できる体制にあるのか。

問 町では自助・共助に

問 小坂地域を例にとると、小坂農村総合管理センターについては、

特別養護老人ホーム「国見の里」も土砂災害警戒区域に位置しているが、町は避難計画をどのようにしているのか。

問 初期活動では、各地区の町内会を母体とする自主防災会が主体となり避難行動や安否確認

問 町では自助・共助に

問 小坂地域を例にとると、小坂農村総合管理センターについては、

特別養護老人ホーム「国見の里」も土砂災害警戒区域に位置しているが、町は避難計画をどのようにしているのか。

住民生活課長

初期活動では、各地

初期活動では、各地区の町内会を母体とする自主防災会が主体となり避難行動や安否確認

初期活動では、各地区の町内会を母体とする自主防災会が主体となり避難行動や安否確認

初期活動では、各地区の町内会を母体とする自主防災会が主体となり避難行動や安否確認

初期活動では、各地区の町内会を母体とする自主防災会が主体となり避難行動や安否確認



藤田地区防災訓練でAEDの使い方を体験しました

初期活動では、各地区の町内会を母体とする自主防災会が主体となり避難行動や安否確認

村上 一議員



Q 地域経済活性化について 今後の計画は

A 第5次振興計画をより具体的に進める



浅野富男議員

県からの財源も確保し、第5次振興計画(後期)をより具体的に進め地域経済の活性化につなげたい。

問

人口減少に大きな影響がある子育て支援をどのような考えで取り組むのか。

保健福祉課長

町では妊娠、産、新生児期、乳児期、幼児期と成長に合わせて支援する仕組みとして「子育て世代包括支援センター」事業について検討しており、安心して生み育てられる環境を整えていく。

問

まちづくりは、その地に住民続けることや住民自治も大切になる。次年度以降の計画はどのようになるか。

住民生活課長

人口減少は町内会などの住民組織の担い手不足による共助の部分での防災力に与える影響も危惧され、また地域コミュニティの機能低下にもつながる。安心安全で住み続けられるためには地域リーダーの育成や町内会を母体とした自主防災会の強化を図りたい。

問

政府の方針では小さな拠点づくりの話が出てくるが、そのような背景を見据えた上での今後の進め方について、どのような考えか。

町長

一番のベースは個人一人ひとりで

とりであり、60余りある町内会のコミュニティがベースではないかと思う。その地区でコミュニティを維持発展させるという思いを常に持つことが重要だと思う。同時に町も維持するための支援をする必要がある。町内会の自主性を尊重し、町も関与することで町としての維持発展があると考えている。

問

その地域で生き続けられるためには産業や生活面での支えが必要になってくる。高齢になれば公共交通機関も必要にな

町長

ネットワークということがあるが、そういったネットワークづくりについての考えは。ネットワークは、商工会で運営している乗り合いタクシーや公共交通のバスも運行されている。地域型に目を向けた形での対応、生活基盤の維持発展というのが非常に重要であると考え、今後第6次振興計画に向けて検討していきたい。



家族連れで賑わった大木戸歴史村づくりの会共催の七夕まつり

産業建設

農業者育成や都市整備について学ぶ

11月1日、2日の2日間、産業建設常任委員会の県外行政調査を実施しました。1日目は、秋田県横手市の実験農場を視察しました。この実験農場では、園



横手市実験農場で説明を受けるようす

次に、秋田県紫波町のオガールを視察しました。オガールは、「おがる」（方言）＝「成長する」、ガール＝「駅（フランス語）」の意味で、紫波中央駅前に、役場や図書館、体育館、ホテル、小売店などが整備されている場所です。補助金に頼らない公民連携の手法による都市整備事業によるもので、民間活力を活用したまちづくりが進められており、まちづくりには、地

芸品目栽培実証事業や、野菜の接木苗など農家への供給などを行う地域種苗センター事業のほか、新規就農者等育成事業として、今年度は、2年目研修生4名、1年目研修生7名を受け入れ、農業の担い手の育成を図っています。研修生には生活支援金として月10万円が支給されるなど受け入れ体制が充実していることがわかりました。

議会運営委員会所管事務調査

先進地の議会制度を学ぶ

元住民や企業、行政が三位一体で取り組まなければならないと感じました。2日目は、岩手県平泉町議会を表敬訪問しました。寺崎副議長、升沢議員、千

11月5日、6日の2日間、議会運営委員会の所管事務調査を実施しました。1日目は只見町で、議会制度について説明を受けました。只見町は、議会改革として、1年中議会を開催することができるとして、県内でもトップクラスの議会運営を行っている。通年議会制とすることで議会の招集権が町長から議長となり、災害対策をはじめ様々な課題対応がすぐに行うことができるなど、議会の独自性

葉議会事務局長に対応いただき懇談しました。その後、升沢議員に中尊寺を案内していただきました。（報告者 村上正勝）
が發揮できるようになります。また、只見町は、ユネスコエコパークに登録され、全国ブナ林フォーラムを開催し、ブナ林保全の提言をするなど全国的に注目されている町でもあります。予算や決算の審議方法についても説明を受けました。その後、只見町ブナセンターを見学しました。2日目は、柳津町の西山地熱発電所を見学しまし



只見町議会の制度を学びました

た。原発事故以来、再生可能エネルギーとして、太陽光発電や風力発電などが注目されていますが、その一つとして地熱発電があり、この発電所は東北電力の6つの発電所の一つです。地熱発電は設備投資も大きく、地理的にも難しいと感じました。（報告者 八島博正）

地方議会のあり方を考える

町村議会議員研修会

平成30年10月23日、郡山市のユラックス熱海で開催された町村議会議員研修会に参加しました。

まず、「地方議会のあり方・活性化について」と題し、東京大学大学院法学政

治学研究科の金井利之教授の講演がありました。

地方議会議員に対する不信感というのは深刻で、それがかなり手不足にもつながっていることや、議会議員は活発な議論を行うことで多様な民意の代表となるという話があり、議員は首

長との議論が不可欠であり、さらに首長・議員以外の人とも議論を行うことが重要であるとのことでした。また、昨年3月に総務省が示した「集中専門型」「多数参画型」の2つの議会モデルについては、総務省としては「細く長く」持続できる議会を目指すとしているが、このモデルは事実上の議会形骸化論であり、ますます手不足になるのではとの話がありました。

地方議会の課題を学びました

した。

次に、「今後の政局・政治展望」と題し、日本大学法学部の岩井奉信教授より、安倍内閣の今後の動向など興味深い講演をいただきました。

(報告者 東海林一樹)

地方自治研究 交流セミナー

平成30年12月20日、伊達郡三町(国見、桑折、川俣)が抱える地域課題を解決するため、第1回地方自治研究交流セミナーが観月台文化センターで開催されました。福島県町村議会議長会の主催によるもので、町村議会議員を対象に開催されました。

地方議会が抱える 課題と可能性

講師 福島大学
行政政策学類

中川 伸二 教授

主な講演の内容は次のとおりです。

(1) 地方議会を取り巻く現状

● 議会改革は、議会基本条例制定数が頭打ちとなっており曲がり角に立っている。改革のメニューは揃っており、後は料理する料理人の問題ではないか。

● 投票率の低下、無投票当選の問題は、議会・議員自身が解決すべきもので、我々住民はあまり関係ないと考えている人が多いのではないか。本質は住民の問題であるのに、住民の危機感があまり感じられない。

(2) 町村議会における深刻な「なり手」不足

● 議員のなり手不足は議員報酬、拘束時間の長期化な

ど色々な原因がある。

● アンケートで議員になろうとした理由に、「自分の町を良くするため」と回答した人が一番多かった。地域とのつながりを重視している。

(3) 若者と議会

● 若者は政治に生に触れる機会は少なく、メディアによるネガティブなイメージがある。学校でも政治に関する教育をしてはいけなくはないが、タブー視されていることがある。このような現状を変えるため、地方議会を通じて地域や政治について若者が学ぶことができれば、ネガティブなイメージも変えることができるのではないだろうか。

講演後のディスカッションでは、なり手不足について三町の議会議長の考えや現状を中心に進められました。

各議員が、議員としての役割、活動のあり方について決意を新たにしました。

(報告者 松浦和子)



傍聴者からの

声

12月議会を傍聴したみなさんからアンケートにより
たくさんの意見をいただきました。

- 高齢者が多くなり、結婚する方も少なく、人口の減少がますます心配です。議員の定数も考えなければいけないのでしょうか。(60代・女性)
- 広報くにみ、議会だよりで議会内容がわかりますので、さらに充実した内容を望みます。(70代・男性)
- 少子高齢化、人口減少等すべて関連、比例するので、町の財政に影響します。費用対効果をすべて念頭に置いた施策方策が必要ではないでしょうか。(70代・男性)
- 議会傍聴関心の高揚、土・日曜日の開催、または生涯学習(三学級)への要請。(80代・男性)
- 道の駅収支決算、わかりやすく報告願いたい。(80代・男性)
- 藤田地区スポーツ振興会の設置を強く望みます。(80代・男性)
- 議員の質問に今後の国見町は続いていくのか不安です。(60代・女性)
- 議会開会時間、午前9時30分を望みます。(一般の通例)(80代・男性)

議会の動き

12月4日 ～7日	12月議会定例会
12月4日	議案調査会、総務文教常任委員会、産業建設常任委員会
12月5日	広報常任委員会
12月6日	正副議長委員長会議、全員協議会
12月7日	議会運営委員会、全員協議会
12月11日	第23回義経まつり第4回実行委員会
12月13日	町叙勲・各種表彰祝賀会
12月15日	公立藤田総合病院白藤会忘年会(福島市)
12月16日	「石原コレクション」常設展示オープニングセレモニー
12月19日	食の文化祭
12月20日	地方自治研究交流セミナー
12月21日	公立藤田病院組合議会臨時会
12月23日	あつかし山ビッグツリー点灯式
12月25日	福島地方水道用水供給企業団例月出納検査(福島市)
1月4日	町新春賀詞交歓会
1月6日	町消防団出初式
1月7日	広報常任委員会
1月8日	交通三団体交通安全祈願祭
1月10日	広報常任委員会、国見地区建築業組合定期総会、知事懇談会(福島市)
1月13日	町成人式
1月16日	広報常任委員会、総務文教常任委員会
1月18日	議員懇談会、産業建設常任委員会
1月23日	地方自治研究交流セミナー(桑折町)
1月25日	伊達郡各町議会議長会議(福島市)、伊達郡振興懇談会(福島市)
1月28日	福島地方水道用水供給企業団例月出納検査(福島市)

議会の動き

北海道胆振東部 地震への義援金 を寄託

11月22日、東海林議長が日本赤十字社福島県支部を訪問し、北海道胆振東部地震に対する町議会からの義援金11万円を寄託しました。

高野統括参事へ義援金を手渡す
東海林議長(右)



議会傍聴をしてみませんか

次の定例会は**3月5日**開催予定です

- **手続きは簡単です!**
受付簿に住所・氏名などを記入するだけで気軽に傍聴できます。
- **議案資料を準備します!**
議案審議がわかりやすくなるよう、傍聴者には議案資料を提供します。
詳しくは議会事務局へお問い合わせください。TEL 585-3295(直通)

阿津賀志山をもっと知ってもらうために

国見町は、国を見る町なら
ではの宝物が豊富にありま
す。中でも私にとっての国見
町のシンボルは、県境近くに
位置している標高289・4
メートルの低山、阿津賀志山
です。インターネットで検索
すると歴史上でも有名な奥州
合戦の古戦場の山一帯と出て
くる有名な山です。国見町の
お土産品としても今人気のお
酒「あつかしさん」にも登場
している山です。

わが子が藤田小学校時代
は、毎年親子の阿津賀志山登
山があり、頂上から見渡す風
景は格別でした。小学生でも
頂上まで登り切れる低山！そ
の阿津賀志山の良さを色々な
方に知っていただくために、



菊地さかえさん
(石母田原町内会)

誰が見てもわかりやすいPR
をもっと大々的にしていただ
きたいのです。例えば、「ど
こが阿津賀志山なのか?」「登
山口はどこなのか?」を道の
駅やJR藤田駅、観月台文化
センターなどにポスターを掲
示していただきたいのです。
「登山を始めるなら、まずは
親子で阿津賀志山へ!」のよ
うなキャッチフレーズでPR
したら足を運ぶ観光客も増え
るのではないのでしょうか。今
は車社会なので、交通量の多
い国道4号線の道路標識を大
いに活用していくのが一番お
勧めです。一般の方に目につ
きやすく、行ってみよう、今
日は無理だけど次回はチャレ
ンジしてみたい、と思える案
内板が理想です。観月台文化
センターにも阿津賀志山資料
コーナーを設けて足を運べる
ようにできたら国見町の宝が
どんどん輝いていくことと思
います。登山のできる阿津賀
志山をぜひ実現していただい
けることを切に望みます。

地方議会の課題について考える

地方自治研究交流セミナー



12月20日に、地方自治研究交流セ
ミナーが開催されました。
セミナーでは、講演のほか、質疑応答
の時間が設けられ、活発な議論が交わさ
れました。(詳細は12ページをご覧ください。
さい。)

新年明けましておめでとう
ございます。

今年は5月1日に皇位継承
が行われ、また元号も変わる
歴史的にも大きな節目の年を
迎えています。

また、6月には任期満了に
よる町議会議員の選挙もあ
り、東日本大震災から8年目
を迎え、3回目の選挙となり
ます。

この間、災害からの復旧、
復興に向け、町当局とともに
頑張ってきましたが、道半ば
の感が否めません。

新しい時代に即応した町づ
くりのため、今年も数々の問
題解決をしていきたいと思
いますので、町民の皆さんの変
わらぬご支援、ご指導をよろ
しくお願いいたします。
(八島 博正)

発行責任者

議長 東海林一樹

広報常任委員会

委員長 松浦 和子

副委員長 村上 正勝

委員 東海林一樹

委員 八島 博正

委員 佐藤 定男

委員 井砂 善榮

